

バイデン：法王フランシスは「我々の家族に信じられないほど寛大だった」

前副大統領が法王を称える

Jack Murphy @NeonNettle

December 21, 2020



バイデンの法王賛美は、彼が聖体拝領の秘跡を拒否されて1年後に起こった

前副大統領ジョー・バイデンは、法王フランシスを賞賛し、彼らの関係が2015年に始まって以来、法王は「信じられないくらい寛大だった」と言った。

バイデンは Stephen Colbert に、先週、法王との面接について話した。

「法王は私の家族に対し、信じられないくらい寛大だった」とバイデンは言った。

「彼が訪ねてきたとき、我々はカトリック一家だった。そして我々が法王を案内する役をした。そしてボー（Beau）が2週間前に死んだところだった。そして彼は、家族に会いたいと言って、空港の格納庫へ、フィラデルフィアを出発する間際に入ってきたのだ。

「我々は家族16人がそこにいた。彼はボーについて話ただけでなく、ボーのことを詳しく話した。彼がどんな人間なのか、また家族の価値について、許しについて、品位について話した。



バイデンは法王について話しながら、自分は「法王様の心からの崇拜者だ」と言った

(ここに黒くつぶした写真が入る)

昨年、あるサウス・カロライナのカトリック聖職者は、バイデンが墮胎肯定の考えを持っているとして、聖体拝領の秘跡を拒否した。

「悲しいかな、先週日曜日、私は、前副大統領ジョー・バイデンに対して、聖体拝領を拒否しなければならなかった」と、聖アントニオ・カトリック教会の Robert E. Morey 神父は記者団に話した。

「聖体拝受は、我々が神と、また互い同士、そして教会と一体であることを意味するものだ。我々の行動はそれを反映しなければならない。

「誰であれ、公的な人物で墮胎を肯定する者は、教会の教えからはずれることになる。」



今月初め「に、カトリック連盟総裁 Bill Donohue は、バイデンの「敬虔な」カトリック信仰というメディアの偽善を、公然と非難した

ドノヒュー博士は、あるエッセーで、「カトリック教徒は、ロサリオさえ持っていれば、貧民の幼いシスターたちに何かを強制することは」OK であるらしい、と書いた。

ドノヒューはこう書いた：——「CNN は、12 月 13 日のある記事に、ジョー・バイデンは教会へ行き、祈り、ロサリオを身に着けている、と書き」一方、雑誌「アメリカ」や NPR やワシントン・ポストに、ちょうちん記事を載せている。

バイデンが、教会の核心である道徳的教えを平然と拒否しても、それは左翼メディアによって容認されるらしく、彼らは信仰の外面的な飾りだけを強調している。

8 月、ある尼僧が、バイデンと、彼の相棒カマラ・ハリス上院議員（民・カリフォルニア）を非難し、この 2 人は「考え得る最も反生命的大統領候補」だと警告した。

参考記事：「420 万のアメリカ人が、法王フランシスに抗議してカトリック教会を棄てる」

——以上

[Greatchain 訳注]

法王フランシスについては、いくつもその言行録を紹介してきたが、常にペドフィリア擁護であった。バイデン父子の悪の中心もそこにある。あたかもそれが「親和力」によるかのように、自然に相手を求めていくことが、このエピソードからよくわかる。これは民主党などの勢力が、おのれの奸計によって自ら滅びていく過程とよく似ている。